

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ブロッサムジュニア加古川駅前教室		
○保護者評価実施期間	2024年12月1日 ～ 2024年12月29日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46 (回答者数)	35
○従業者評価実施期間	2024年1月10日 ～ 2024年1月25日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2024年2月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職による専門的な支援を実施している。	作業療法士による「発達アセスメント」や言語聴覚士による「構音スクリーニング」など、専門職ならではのツールを活用し、利用者の特性に応じたきめ細かい支援を行っている。	公認心理士等の専門職を新たに配置することで、利用者に対し、あらゆる面からきめ細かい支援が可能となるので、早期に人材確保を行い配置する。
2	課外活動が充実している。	夏休みなどの長期休暇中や祝日の課外活動では、子供達に季節を感じてもらったり、感受性を高めてもらうことを目的に体験学習・施設見学・野外活動などを積極的に取り入れている。	長期休暇中の課外活動については、保護者からアンケート（要望）を取り、その要望に基づいたプログラムを組み入れることで、更なる充実を図っていく。
3	地域交流を盛んに行っている。	「子育てプラザ」「寺家町商店街」「加古川公民館」等を利用した活動で地域の方との交流を深めている。また、近隣の保育園や就労A事業所と連携を図り、定期的に交流イベントも行っている。	今後も地域の様々な施設と交流を深め、地域のみなさんに協力頂きながら、子供達が健全に成長していけるような環境作りを行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内での活動スペースが限られている。	指定基準に基づいて、集団療育室・個別療育室それぞれの活動スペースは確保できているが、児童6人以上での運動療育となると集団療育室は少し手狭に感じる。また、体調不良が出た際の休憩スペースの確保に課題がある。	大人数（6人以上）での運動療育は構造上の問題で難しいため、そういった場合は、近隣の公園などを利用し運動療育を行う。体調不良が出た場合の休憩スペースについては、仕切りを上手く行うなどの方法で休憩スペースを確保していく。
2	（放課後等デイサービス） 利用者は小学校低学年が中心となっている。	放課後等デイサービスの利用者は小学校低学年が中心となっており、小学校高学年以上の利用者が少ない。そのため、低学年向けの療育プログラムが中心であり、高学年に提供する療育プログラムに課題がある。	低学年向けの療育プログラムの際は、高学年の利用者には先生役や職員のお手伝いを任せするなど、療育プログラムや状況に応じた役割を与える。また、療育内容を学年別で難易度を設定する等の工夫をしていく。
3	職員の年齢層が若い。	専門職を含め、比較的若い年齢の職員が多く、療育プログラムを提供するにあたり、経験値や引き出しという面で課題がある。	今後、新たな人材を採用をする際は、児童福祉業界における実務経験年数を考慮し、募集・採用活動を進めていく。